

香川のまちづくりを考える

未来人

これからのまちづくりに尽力する「未来人」との対談を通して、住みやすい理想の街を考える。対談のフルバージョンは、後日ナイスタウンHPで公開予定!

『ナイスタウン出版』は来年、設立から45周年を迎えます。

これからも読者やクライアントの皆様が必要とする情報を発信するため、出版業だけではなくWEBやイベントなど多彩なコンテンツで事業展開をしていきたいと考えています。そこで、「若者文化をもっと楽しく、活気あふれる街をつくる」という創業の理念に立ち返り、香川県で活躍する人に「理想の街」を問う連載企画をこの秋よりスタートします！対談の聞き手は、地域交流会「テラロック」を主宰する寺西康博さん。寺西さんの熱量と行動力に、これまで多くの人が背中を押されてきました。柔軟な思考を持つ若者の力を借りて、読者の皆様に街の未来図を示していきます。

ナイスタウン出版株式会社
専務取締役 吉田 直由



観音寺市で福祉事業を営む毛利公一さんは、

障害者を含むマイノリティー(社会的少数派)の人たちが心地よく暮らせるまちづくりに挑んでいる。23歳の時、不慮の事故で首から下を動かせなくなった。身体の自由を失い、障害者に向ける同情を含んだ視線に気付く。一方、留学で訪れた米国は自分が車いすに乗っていることを忘れるほど周囲の態度が自然だった。「障害者に抱くマイナスのイメージこそが障害者をつくる」。意識の壁を取り払い、誰もが自由に生き方を選べる社会の構築を目指す毛利さんに理想の街を聞いた。

▽ 日米の差

寺西 毛利さんは米国留学中の2004年、海の事故で大けがをし、眼球以外を動かせなくなつた。自力で呼吸することさえ困難な状態からリハビリで呼吸と声を取り戻し、2008年にNPO法人「ライフ」(現、社会福祉法人「ライフ」)を設立。経営者として4つの介護福祉事業所を運営するほか、コロナ禍の2020年4月には、新会社「モリス」を立ち上げ、福祉事業のコンサルティングも始めた。挑戦を続ける毛利さんにとって、いい街とは。

毛利 障害者などマイノリティーが当たり前の選択をできる街だ。マイノリティーとの触れ合いや感情を共有する機会が積み重なって、街はつくられる。2004年に米国に渡った時、日本との違いに驚いた。障害者が街のカフェで談笑し、おしゃべりや買い物を楽しんでいる。ごく自然に街に溶け込んで暮らす様子が印象的だった。一方、地元では当時、車いすの人を街で見かける機会すらほとんどなかった。観音寺市で事業を



地域交流会「テラロック」主宰
寺西 康博 さん
TERANISHI YASUHIRO

Profile

地域交流会「テラロック」主催
寺西 康博 さん

好きな食べ物/うどん
趣味/人と話すこと

1985年、高松市生まれ。実家は讃岐うどん店。地域の若手とプロジェクトチームを組み、挑んだ地方創生のアイデアコンテストで、2年連続日本一となった。多様な人が意見を交わす交流会「テラロック」を主宰。共感を生み出し、認知を揺さぶる場をつくり続ける。

「(社福)ライフ」理事長、「(株)モリス」代表取締役
毛利 公一 さん

MORIKOICHI



2010年から続く、「ふれあい夜市」の様子。



就労継続支援A型事業所「リール」。



始めた2008年、香川県の福祉は遅れているというウワサを聞いた。「それから観音寺を日本一の福祉の街にしよう」と思った。今も変わらない原動力だ。「ラーフ」では、障害者の働く場や生活介護など、地域に足りない障害者の受け皿をつくっている。

寺西 ラーフは「Laugh(笑い)」から名付けた。

毛利 米国でけがをした直後、楽観的で前向きな私も「時計の針が逆に回らないか」と願わずにいられなかった。救いだったのは、米国の集中治療室が24時間面会可能で、友人が訪れてくれたこと。声を出せない私にできるのは、笑顔でいることだけ。「笑顔でいたら、また来てくれるかな」。独りになる時間が何よりも嫌だった。笑顔は自分の気持ちを前向きにしてくれたし、友人は何度も来てくれた。

寺西 国内屈指の棒高跳びの選手だった。けがをする前、障害についてどう考

“少数者が溶け込める街に意識の壁をなくし自然体で”

えていたか。

毛利 正直に言うと、全く関心がなかった。自分には関係のない世界と捉え、障害者を「かわいそうな人」という目線で見ていた。23歳でけがをして、見える世界が変わった。「かわいそう」など、まわりの人たちが障害者に抱くマイナスのイメージこそが、障害者をつくるのだと気付いた。私は障害者になったが、跳び越えるバーが変わっただけ。今も挑戦を続けている。

寺西 福祉の役割をどう考えるか。

毛利 障害者などマイノリティーの社会参画を支える後方支援。福祉は、支援を受けていない人には実感しづらい。興味を持ってもらえる仕掛けが必要だ。2014年に再度米国を訪れたが、障害者に向ける視線が日本と全く違い、自分が車いすであることを忘れるほど。目立ちたがりの私からすれば物足りなさもあったが(笑)、そこでは、私は「スベシャル(特別)」ではなく、「ジェネラル(一般)」。変なこだわりや気遣いが全くない。その地域では、1970年頃から「障害者を差別しない」という方針が示されていた。長年かけて障害を意図から取り払った場所では、福祉の支援を受けた障害者が積極的に活動している。それが街の価値にもなっている。街を変えるためのグランドビジョンは必要だ。

▽ 行動

寺西 「ラーフ」が運営する4つの事業所



は、障害者の働く場と

なっている。他にも、「ふれあい夜市」や

毛利 他分野とコラボし、福祉を前面に出さないイベントを開催してきた。2010年から続く「ふれあい夜市」の屋台では障害者が調理や接客をし、自然な交流が生まれている。これまで、福祉にスポーツ、文化、音楽などをかけ合わせてきた。参加者は年々増え、2019年は約2千人。2020年はYouTubeでの発信を始めた。地元企業の協賛と市の支援が主な資金源だが、近年はクラウドファンディングや屋台のブース料を運営費に充てるなど工夫を重ねている。

寺西 「ふれあい夜市」を始めたきっかけは。

毛利 昭和時代、この地域では夏の毎週土曜日に「土曜夜市」が開かれていた。約

60年続いたが、過疎化に伴いなくなってしまった。人であふれたアーケード街は撤去され、商店も消えた。当時の活気を取り戻したい一心で「ふれあい夜市」の事業計画を市長に持ち込んだ。市長に背中を押してもらい、トントン拍子に事を運んだ。大切なのは行動することだ。

寺西 障害者がモデルを務めるファッションショーを2009年に始めた。

毛利 服装や髪形をおしゃれにすると、前向きな気持ちになり、外出したくなる。そのことを伝えたくて、ファッションショーを開いた。ファッションショーは形を変えながら「ガラスの靴プロジェクト」につながっている。障害者がウェディングドレスを着て、有明浜や一の宮公園で撮影した写真をアルバムに残す。障害者に限らずマイノリティーの人に体験してほしい。他地域でもやってほしいと反響があった。

▽ 差別に向き合う

寺西 自身の障害をどう捉えているか。

毛利 私の視線は常に前向き、上向きだ。つらいときや落ち込んだとき、視線は下を向く。首から下を動かすことが苦手な私、いくら首から下を見てもできない部分しか見えない。視線が前向きか上向きだと、首から上で何でもやろうとする私の良いところが見える。できないことを探すマイナスの視線より、できることを見つけるプラスの視線が必要だ。ピンチはチャンス。例えば、私は手足の感覚がなくて体温調節が苦手なため、一年中睡眠に悩んでいる。この私の悩みを解決できなかったら、睡眠に悩む世界の人を救えるはず。障害がある私の身体は価値になる。

寺西 差別や偏見にどう向き合うか。

毛利 社会福祉士の有資格者として不適切な発言かもしれないが、差別は必ず

起こるもの。差別の発生を予見し防止することは難しい。その前提に立ち、起こったときにどう対処できるかが重要だ。一人ひとりが見て見ぬふりをせず、それは違うと表明できるかどうかにかかっている。皆さんが誰に対してもプラスの視線を持てたら、障害者という言葉は要らなくなる。

▽ 選択肢をつくる

寺西 成し遂げたいことは。

毛利 障害者に、衣食住そして働くことを選択肢をつくりたい。私がかがをしたことも、何らかの運命的な理由があると思っている。福祉の力で、障害者が住みたい街にしていこう。「モーリス」では、悩みを解決する商品やサービスを生み出すとともに、私の経験と経営手法を人に伝え、全国の福祉人材育成に貢献したい。まちづくりも人助けもビジネスもやっていきたい。欲張りだ、人生の野望は尽きない。

寺西 挑戦を続け、目標を実現するには。

毛利 目標や夢を語ることで、言葉には力がある。自分で無理と決めつけると、できない理由を探し始める。誰と、何を、どうやればできるかを考え、行動して失敗を積み上げていく。すると、必ず突破口が開ける。信念を貫き、やり切れるかは自分次第。もちろん私も不安や恐怖を感じるし、新型コロナだって怖いけど、決してできない理由にはしない。小さな一歩でいいから、できることを見つけて前



「ふわっとワッフル」
made by 支援センター ウィズ



焼きたてのふわふわワッフル生地は、地元で採れたこだわりのジャムと手作りカスタード、ホイップクリームをたっぷり挟んだお菓子。ふるさと納税の返礼品としても大人気!

PICK UP NEWS!

「ガラスの靴プロジェクト」

マイノリティーを主役に。私達はあなたに魔法をかけます。美容を通じて、一生の思い出、美へのきっかけ、そして、社会参加へ…3月からプロジェクトが再始動予定。



問合せ

(社福)ラーフ

観音寺市古川町97-2

☎0875-24-0999

http://shafuku-laugh.com

(株)モーリス

観音寺市観音寺町甲3407

https://mori2.co.jp

Profile

「(社福)ラーフ」理事長
「(株)モーリス」代表取締役
毛利 公一さん

好きな食べ物/焼肉とビール
趣味/面白い事業を考えること
人と話すこと

実業家、香川短期大学客員教授、
「(社福)ラーフ」理事長、「(株)モーリス」を設立し、社会福祉事業・福祉コンサル事業等を展開、
2014年に人間力大賞を受賞。